

# NCGM PRESS



# 9

Vol.9 秋号

National Center for Global Health and Medicine

## ▶ CONTENTS

● MEDICAL PRACTICE 心臓血管外科／麻酔科  
● 大切な「産後ケア」のおはなし

● 病院敷地内「国際庭園」の美化活動  
● NCGM 連携の会



本年5月8日に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に変更されて以降、再度患者数が増え、高止まりとなっていました、ようやく減少に転じたようです。

コロナと共存下においても、NCGMはこれまで以上に高度で安全な医療を患者さんに提供し、地域医療に貢献してまいります。診療連携登録医の皆様におかれましても、引き続きNCGMとの連携を継続、強化していただき、より良い関係を構築できれば幸いです。

国立国際医療研究センター病院  
病院長  
杉山温人 Haruhito Sugiyama



今号ではスタッフが一新された心臓血管外科、そして普段はあまり表に出ることはありませんが、手術にはなくてはならない縁の下の力持ちである麻酔科を特集しました。

いずれも新任の診療科長をお迎えしております。また産後のお母さんと赤ちゃんへの支援となる産婦人科の産後ケア事業についても掲載しております。

絶えず前進を止めない当院の「今」をご覧ください。

国立国際医療研究センター病院  
副院長  
丸岡 豊 Yutaka Maruoka



**井上信幸医師**  
●心臓血管外科診療科長

心臓血管外科について話を聞いた井上医師。  
日本心臓血管外科学会専門医、日本循環器学会  
専門医、日本外科学会認定医・専門医

# NCGM 1

MEDICAL PRACTICE

心臓血管外科●診察のご案内▶



●緊急手術を要する疾患にも 24 時間 365 日対応する

## 心臓血管外科



複雑症例、再手術症例、低心機能症例、ハイリスク症例など、  
数多くの診療実績を誇る診療科。

### 心臓血管外科の特徴と 理想的な地域医療連携

当科には大きく以下の3つの特徴  
があります。

1つ目は、近隣の開業医の先生方  
から、様々な心疾患の紹介を受け循  
環器内科が診療に当たっているた  
め、一般的な手術患者さん(冠動脈  
疾患、弁膜症、動脈瘤など)のコン  
サルトを連日受けています。

2つ目は、当院の救急車の受入件  
数が年間約10,000件であるこ  
とから、心臓大血管の救急を要する  
患者さんが多く紛れていて、緊急手  
術に365日対応しています。

3つ目は、地域の総合病院の各科  
との連携が深いことから、急性・慢  
性に関わらず、様々な患者さんをお  
引き受けしています。

この3つの特徴に共通しているこ  
とは「地域医療連携」です。

私は「病気」というものは「ひと  
つの施設」で治療するものではなく、  
「地域」で診ていくもの、という理  
念を持っています。

私が地域で患者さんを診ることに  
大切さを知ったのは、大学の医局派  
遣で北海道の帯広の病院に赴任した  
ことがきっかけでした。

### 多職種とのチームワークで オンコールにも素早く対応

前述しましたが、当院は救急車の  
受入が非常に多いため、昼夜問わず  
緊急手術の依頼がきます。当院の救  
急医は診断が的確であるため、連絡  
があった段階で緊急手術の準備に取  
りかかれます。

ただし、我々心臓血管外科医が対  
応可能といってもそれだけで手術は  
できません。手術を行うには、我々  
心臓血管外科医の他に麻酔科医、看  
護師、臨床工学技士など10名程のス  
タッフが必要です。手術室やICU  
の空き状況も含め、この中でどこか  
1つでも欠けると手術を行うことは  
できません。

しかし、当院の手術関連部署はど  
こも風通しが良く、つながりが強い  
ため、執刀までの時間が短いことが  
自慢です。

### 同世代と比べて 異変があったら受診を

こういつた心臓や大血管の病気に  
早く気付くにはどうしたら良いか？  
いつ受診するべきか？という質問を  
よく受けます。

自分の病気に気づくことは非常に

帯広を中心とした十勝地域は、非  
常に広大(東京都の約5倍)にも関  
わらず、心臓手術が出来る病院は3  
つしかありませんでした。自施設で  
対応出来なかった緊急患者さんを、  
他施設がスムーズに受入れて救命し  
てくれたことに感銘を受け、病院間  
の連携の大切さを実感しました。

この考えは人口が多く、病院の数  
も多い当地域でも一緒です。例えば  
緊急手術を要する患者さんが重なっ  
たり、10以上もある手術室が埋まっ  
ていたり、流行する感染症などによ  
りベッドが不足したりするケースは  
度々あります。

しかし一刻を争う患者さんの命を  
救うためには、「地域」に協力を求  
めなければなりません。大学病院な  
どの大きい医療機関も例外ではな  
く、当院に転院搬送の依頼がくるこ  
ともあり、またその逆も当然ありま  
す。

つまり多くの医療従事者が連携  
し、1つの病気を治していく「地域  
医療連携」は非常に重要で、普段か  
ら他の施設との垣根を越えた関係作  
りが必要であると考えています。



難しいことです。私たち心臓専門の  
医師は病気の有無を確認する際に、  
しばしば同年代と比較する質問をし  
ます。

例えば70歳代の方で、同じ70歳代  
の方と一緒に歩いていて自分だけ歩  
くスピードが遅くないか？階段を  
上っている時に自分だけ息を切らし  
ていないか？などから、心臓の病気  
を予想します。みなさん、同年代と  
動きを比べて自分だけ劣っているよ  
うに感じたら、最近の調子を振り  
返ってみてください。何か異変が起  
きているようであれば、受診をお勧  
めします。

まずは近隣のクリニックやかかり  
つけ医に相談してみてください。検  
査し何も異変がなかったとしても、  
受診には大きな意味があります。異  
変を放置して、緊急で運ばれた心臓  
手術の死亡率は高くなりますし、社  
会復帰も難しくなる可能性があります。  
出来るかぎり体の異変に早く気  
づくことが肝心です。

### 心臓・血管疾患にならないために

心臓を栄養している血管を冠動脈といい、この血管に動脈硬化が起こると、心臓の筋肉への血流が不足する状態(狭心症、心筋梗塞など)となります。

#### 減らした方がいいもの

タバコ・・・万病のもと  
お酒はほどほどに・・・お酒を飲む際に塩分の多いおつまみを摂りすぎてしまうことが問題



動脈硬化を予防するためには、普段からどんなことができ  
るでしょうか。自分の生活を振り返ってみましょう。

#### 増やした方がいいもの

体を動かす・・・体を動かすことで代謝を上げる。ウォーキングなどで汗をかくことを習慣づける  
血圧を測る・・・普段から自分の平均血圧を知っておく  
体重を計る・・・普段から自分の体重の増減により病気に早く気づく



●救急対応も当院の特徴。24時間  
365日救急車を受け入れしている



●循環器内科と連携をとり、患者さ  
んにとってベストな治療を提供



山瀬裕美医師 ● 麻酔科診療科長

麻酔科について話を聞いた山瀬医師。麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定医・指導医、日本専門医機構認定麻酔科専門医

を開始していただきます。ここから手術終了時までは、外科医師は手術を行い、麻酔科医師は全身管理を行い継続して協力のもとに一人の患者さんの治療を行います。麻酔管理は、飛行機のパイロットにたとえられます。離陸、着陸は派手ですが、一見安定しているように見える上空飛行時も、パイロットの休憩タイムではありません。機体が

安定して飛行できるように常に機器を駆使して確認とコントロールをしています。麻酔科医師も同様で、麻酔導入、麻酔終了時だけでなく常にバイタルサインを確認しています。眠っている（鎮静）、痛みのない（鎮痛）、動かない（筋弛緩）、などの患者さんの良い状態を維持して、外科医師が安全に手術を進められるようにします。患者さん状態を良好にコントロールし続けるためには執刀医とコミュニケーションをとることが最も重要で、様々な状況に迅速に対応することを心がけています。手術が終了したら麻酔も終了していきます。患者さんには強い痛みを感じずに目覚めていただきたく思います。通常は患者さんがご自身でバイタルサインを保てる状態にあることを確認して病棟に帰室していただきます。手術翌日には術後回診で、痛み止めの効果、副作用、麻酔による合併症などを確認して、患者さんの経過を診させていただきます。

以上が手術麻酔での麻酔科医師のお仕事ですが、麻酔科医師と外科系医師のみでは手術はできません。一人の患者さんに対して、関係各

科の医師が外来で診察をしています。状況、各種検査結果、既往歴等を確認してリスク評価をします。予定術式とリスク評価を基に、麻酔計画を立てますが、リスクが高い患者さんに対しては、より慎重な麻酔計画が必要となり、術式によっても計画は異なってきます。リスクによっては術前に軽減することが可能です。

関係各科に診療していただき（循環器内科、糖尿病内分泌代謝科、感染症内科、神経内科、耳鼻科、歯科、

### 局所麻酔と全身麻酔

#### 局所麻酔の一例

脊髄も膜下麻酔や硬膜外麻酔が予定されている方は、横向きで背中を丸くしていただきます。背中に痛み止めの注射をしてから行います。

#### 全身麻酔

全身麻酔では、酸素マスクを口元に当てます。酸素が流れてくるだけです。ふつうに息をしながら点滴から薬が入りだんだん眠くなります。

### 外来での患者さんも多いペインクリニックの治療

ペインクリニックでは、主に頭痛、腰痛、術後痛などの慢性痛に対して神経痛の薬の投薬や神経ブロック注射などを組み合わせて治療をしています。当院では週に3回3人の専門の医師が外来で診察をしています。

### 患者さんに寄り添った開かれた治療

当院では、外科手術が必要な様々な患者さんの受け入れを積極的に行っています。私たち麻酔科は外科系医師と共に協力し、患者さんに寄り添って、最適な治療が可能となるようにサポートしていきます。どうぞお気軽にご相談ください。

# NCGM 2 MEDICAL PRACTICE

麻酔科 ● 診察のご案内 ▶



● 膨大な麻酔件数と専門性の高いペインクリニックまで

## 麻酔科



当院全体の手術における質の高い麻酔管理と、術後の痛みから外来患者までを一手に引き受ける。患者さんの命を守る縁の下の力持ち。



実是多岐にわたる麻酔科の担当する診療領域  
当科では手術麻酔管理、無痛分娩、ペインクリニック外来、術後疼痛管理などの診療を行っております。皆様がご存知の通り、私たちの主なお仕事は手術を受ける患者さんの麻酔管理を行うことです。麻酔科医師は手術麻酔だけをしているというイメージを持たれる方が多いと思いますが、実はそうではありません。外科系医師と共に術前評価、術中管理、術後状況のすべてにおいて関わっています。また患者さんにかかわる各科の先生とも連携します。術前に患者さんの診察を行い、身

### 実際の麻酔の手順

麻酔・手術の大まかな手順は、次の通りです。

ただし、土曜・日曜・祝日が手術の前にあるときは、少し予定が異なることがあります。

- 1) 手術前、麻酔科の術前担当医が問診・診察を行います。術前に外泊を希望される方は、必ず主治医に相談してください。
- 2) 麻酔についての説明を行った後、麻酔のための同意書にサインをしていただきます。
- 3) 手術当日は、飲水や食事制限があります。これは手術の種類や手術開始予定時刻によって異なりますので、担当麻酔科医の指示に従って下さい。
- 4) 手術前に、いろいろな術前処置があります。
- 5) 手術室に到着した後、手術室担当の看護師と病棟担当看護師とともにお名前の確認を行います。
- 6) 手術台の上で血圧計や心電図のモニターを貼り付けます。麻酔・手術中に必要な点滴を手か足に行います。



呼吸器内科などなど、とてもとてもお世話になっております。改善を試み、手術術式、所要時間などについても必要であればディスカッションを行い準備を進めてまいります。可能な限り十分な手術治療ができるように、また術後の経過が良くなるように心がけています。

麻酔科の管理は手術室で行います。患者さんが入室後麻酔を導入して、十分準備が整ったところで手術

## NCGM連携の会

4つのテーマを軸に最新の医療情報について説明があり、多数の参加者のもと令和3年6月以来の開催で、とても充実した内容となりました。

### 地域の医療連携に尽力

令和5年6月26日(月)に医療者を対象にハイブリット形式による「2023 NCGM 連携の会」が開催されました。連携登録医の先生方をはじめ、院内

- 脊椎外科新規開設しました！  
～低侵襲から高難度まで診療内容のご案内～  
脊椎外科診療科長 松林嘉孝
- 消化器内科と病診連携～胆膵疾患を中心に～  
消化器内科診療科長 山本夏代
- 変貌する肺がん薬物療法～肺がんの診断から治療まで～  
呼吸器内科医長 軒原浩
- 最近の肺がん手術の進歩～VATSからロボットへ～  
呼吸外科診療科長 長阪智

からも多くの職員が参加し、当院での最新の治療やトピックスについて説明がありました。

今後も当院は地域の医療機関としっかりと連携を組み、日々の診療に邁進していきます。



●2023 NCGM連携の会  
(令和5年6月26日)の様子。

## 当院ボランティアで蘇った

# 季節の国際庭園

### 患者さんたちが協力しあって美しい庭園に

この庭園は病院の建て替え工事を行った際に造られたものの、数年経ってからは手入れをする人がおらず荒れた状態でした。

私は以前膵臓の病気を患い、この病院で大きな手術を行って命を救われてから、現在も経過観察として通院しております。病院の先生たちに良くしていただき長くお世話になっていることもあり、庭園の手入れを頼まれた際に恩返しをしようと思って、ボランティア活動をすることを決めました。そして庭師の方とともに、まずは荒れた庭園を綺麗にすることから始めました。その後、ボランティア活動に賛同しお花の苗代などの寄付をしてくださった患者さんや地域の方、信用金庫さんなどの支えがあり現在に至ります。

私たちボランティアはお花好きの40代～70代が中心で、身内を介護中の人、病気を患っている人など、様々な事情を抱えながら、みんな楽しく仲良く元気に活動をしています。季節の植物を植えて庭園を彩ることで、ボランティア活動をしている人だけでなく、病院に訪れる人も幸せにできていると感じています。そんな庭園を持続させるために、仲間と協力して日々手入れを行っております。

皆さまもきっと元気をもらえらると思いますので、国際庭園にぜひ立ち寄ってみてください。



●お話をうかがった  
ボランティアさんたち

●上左は鈴木庭苑の鈴木貴博さん。世田谷区から参加。中央は手入れを最初に始めた林さん。



開園時間 ■ 8:30～17:00・土日祝開園・終日敷地内全面禁煙

●住民登録が新宿区にある方へ

## NCGMが提案する大切な

# 産後ケアのおはなし

### 総合病院の強みを活かした きめ細やかな産後ケア

当院は総合病院で、産科・新生児内科だけでなく様々な科と連携し、産後ケアを運営しています。

産後ケアは、お母さんが少しでも安心して育児ができるように、経験豊富な助産師が中心となり育児支援します。お母さんが、赤ちゃんの1日の生活リズムに合わせて過ごし、退院後の生活が具体的にイメージできるようにすることが主となります。具体的なケアの内容は、お母さんや赤ちゃんの体調管理について、個々に合わせた授乳方法のアドバイス、母乳分泌を促すマッサージの提供、赤ちゃんの沐浴の練習、赤ちゃんとの生活の中での休息の取り方への助言等です。お母さんの思いに寄り添いながら、一人ひとりの疑問にお答えし、ご家族が健やかに少しでも安心して過ごせるようサポートをしています。

産後ケアは最長で3泊4日まで可能です。退院後も、育児について分からないことや心配なことがある場合は、外来(母乳外来)で相談し、ご利用



●話を聞いた医師とスタッフ



●笑顔でサポートしてくれるスタッフたち

用いただくことも可能です。

当院の育児支援を通じてお母さんと赤ちゃんにとって良いスタートとなるよう、丁寧にサポートをしていきます。どうぞ NCGM の産後ケアをお気軽にご利用ください。

### 【基本サービス】

#### お母さんへのサポート

- ・授乳支援のサポート
- ・乳房マッサージ
- ・産後の体調確認
- ・産後の生活アドバイス
- ・お食事のご提供  
(入所日の昼食から退所日の朝食までのご提供)

#### 赤ちゃんへのサポート

- ・体重測定
- ・沐浴

#### 育児サポート

- ・抱っこ、オムツ交換、あやし方などの育児練習
- ・沐浴指導(ご希望の方)
- ・退院後に役立つ地域の情報提供

助産師が24時間常駐しており、いつでも相談することが出来ます。疑問に思っていることや不安に思うことがあれば、どうぞお気軽にお声かけ下さい。



●個室



●2人部屋



●お母さんと赤ちゃんのための「産後ケア入院」のご案内



▲QRコードで、左のページに飛びます

※新宿区に住民登録がある方に限ります。

## ■人間ドックセンターのご案内

長い歴史をもつ当人間ドックセンターは、その歴史と経験に基づき、お客様からの安心と信頼をいただいております。その期待にお応えできるよう全スタッフが心を込めてお迎えしております。施設内は広めのフロアでゆったりとしており、スムーズに検査を受けていただけることはもちろん、病院の専門診療科とも常に連携を取っており、ご病気が発見された際には、迅速に専門診療科へご紹介しております。

また当院の特徴として、胃と大腸の内視鏡検査が同日に行えるコースや専門診療科とタイアップしたコース、PET-CT 検査などの様々なオプション検査をご用意しており、皆さまの生活習慣や既往歴などに合わせて、ご自分でご自由にお選びいただけます。日帰りコースだけでなく、ご宿泊コースもご用意しており、お部屋からの夜景やお食事を楽しみながら、時間にゆとりをもって検査をお受けいただけます。



人間ドックセンター

## ご寄付のお願い ～医学研究の発展と優れた人材の育成のために

当センターは、センター病院・国府台病院という2つの診療拠点に加え、研究所・臨床研究センター・国際医療協力局および国立看護大学校を擁し、高度総合医療を提供するとともに、特に感染症・免疫疾患ならびに糖尿病・代謝性疾患に関する研究・診療を推進し、これらの疾患や医療の分野における国際協力に関する調査研究および人材育成を総合的に展開しております。

当センターの活動を推進し、使命を十分に果たすためには、その活動財源を安定的・多面的に確保することが必要不可欠です。課せられたミッションを実現して国民の皆さまに成果を還元するための財源に関して、企業や個人の皆さまからの寄附によるご支援をお願いいたします。

何卒、当センターの寄附の趣旨にご理解頂き、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



ご寄付のお願い

### 診療時間

- 外来診療時間 8:30～17:15
- 初診受付 8:30～11:00  
(紹介状を必ずご持参ください)
- ※休診日や完全予約制を設けている診療科もありますので、必ずホームページをご覧ください。



外来のご案内

### アクセス

- 地下鉄をご利用の方  
都営地下鉄大江戸線 若松河田駅(河田口)から徒歩5分  
東京メトロ東西線 早稲田駅(2番出口)から徒歩15分
- 都営バスをご利用の方  
JR 大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、  
JR 新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行  
「国立国際医療センター前」下車

